



進路情報交換会

3月25日（木）

今年度卒業生の進路指導に関する会議を行いました。担当学年から情報提供は、貴重な財産となります。新3年生担当者だけではなく多くの先生が参加して生徒の進路実現に還元します。この積み重ねが20年続いていることが本校の堅実な進化を支えています。

このような結果を出している要因は20年前に遡ります。平成14年度から学校完全週5日制が始まることに備え、一コマ52分（50分が標準のところ、本校独自に休み時間を8分としていた）だった授業時間を55分にして内容の充実を図ったこと、当時としては先進的な土曜日の補習を取り入れたこと、広範囲から通学する生徒の利便性を高めるためにPTA主催のスクールバスが運行を始めたこと、など意欲的な改革が行われました。生徒指導面では、ルーズソックスにミニスカートというスタイルが全盛期であった時に、礼節の大切さを生徒に説いて、納得を得て本来の服装になったことも大きな出来事でした。

このような状況の中、1999（平成11）年に入学した101回生達は、舘野孝男・学年主任を中心にした学年団のもと、授業に加えて課外や小テストで学びを深め、教師側は、進路検討会や情報交換を綿密に実施して、手厚い指導に生かしました。本校の文武不岐の方針で、部活動にも活発に取り組み全国大会への出場も複数ありました。その結果、現役93名・過年度卒16名が国公立大学に合格し、数年ぶりに国公立合格100名を超えたのです。

この学年の取組は後に続く学年にも引き継がれ、磨かれていきました。私は、級監として102回生、105回生に関わり、108回生の時には学年主任として生徒の成長を見守らせていただきました。大きな重圧はありましたが、生徒達と共に、何物にも代えがたい達成感を味わうことができました。本校の取組は、進学情報誌にも取り上げられ、県外からも多くの学校が視察に訪れています。下妻一高は、今後も貴重な教育財産を継承・発展させながら「一歩先へ（One Step Beyond）」進んでいきます。

